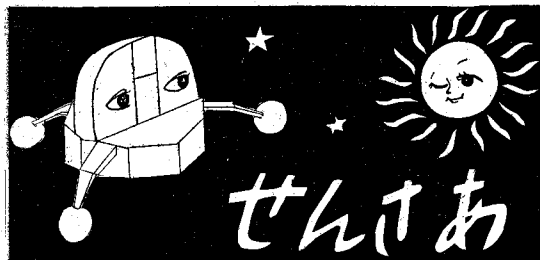


天球上の恒星の位置を表わすための座標系、それと関係した緯度変化など、位置天文学の基本的問題が取り上げられている。この緯度変化は、9割9分まではその原因がすっかりわかっているが残る1分が皆目わからない、といった問題で、その問題提起をしたのは長い期間にわたる緯度観測（日本では岩手県水沢市の緯度観測所で1899年以来継続されている）である。緯度変化の問題でも日本は世界的に大きな業績を残しており（木村栄のZ項の発見など），“日本で始まったこれらの研究は、なんとか日本で結末をつけたい”と著者は念願しておられる。

本時は講談社の現代新書の一冊として執筆されたものであり、その対象は勿論一般読書子にあると思うが、新制大学の教養学部程度の学生で、天文学に興味を持っておられる諸子には是非一読をすすめたい。（堀源一郎）



☆ 本年11月12日に南米で見られる日食を観測するために、東京天文台の観測隊、齊藤国治教授他3名、東北大の観測隊、加藤愛雄教授他2名がペルーに行く。東京天文台隊が観測を予定しているペルーのアレキパ市附近は、海拔約4,100メートルで現地時間で8時14分頃に約80秒間食が見られる。

東京天文台隊は齊藤、秦氏が四連カメラによるコロナの偏光輝度測定、日江井、平山（淳）氏がフラッシュスベクトルによる紅炎、彩層の研究を行うことになっている。東北大隊は地球物理学的観測を行う。両隊とも旅費は日本学術振興会の日米科学協力事業による資金で賄われた。

今回の日食はアンデス山脈を通るので、空気が澄んでいて、コロナの観測等には大変条件が良い。そのため、ペルーはもとより、アメリカ合衆国から300人位、その他オランダ、スイス、フランス、イタリーなどからも観測隊が出かける。ペルーでは石塚睦氏がワンカイヨ地球物理研究所の太陽部長なので、この人がペルー隊の中心になるとおもわれる。

☆ 本会の元評議員、武藤勝彦氏は、本年8月16日、病気のため、逝去された。武藤氏は現在日本測量協会々長であるが、国土地理院長、測地学会委員長等を歴任された。12月号に追悼記事を掲載する予定である。

☆ 8月22日より、9月10日まで、日本において太平洋学術会議が行われた。第1週及び第2週は東大において行われ、第1週はシンポジウム、第2週は専門別会議が行われ、第3週に入ってから、専門別に日本各地に分散して特別シンポジウムが開かれた。天文関係としては地球物理の中に測地天文の部門があり、関係する研究者が参加された。

☆ イギリスの月面観測者として有名な Patrik Moore 氏は、6月22日、日本旅行のついでに三鷹の東京天文台を訪問され、構内の施設を見学し、研究者と交歓された。同氏は五藤光学に望遠鏡を発注するために来日されたとのことである。

☆ 8月17日、岡山天体物理観測所に新設される、太陽クーデ望遠鏡の起工式が行われた。



15 cm 経緯台

#### 厳密なる精度・安価な値段

ニュートン式抛物面鏡(斜鏡付き)

8cm~30cm(アルミメッキすみ)

カセグレン式抛物面鏡(補鏡付き)

20cm~30cm(アルミメッキすみ)

接眼鏡(全面コーティングすみ)

オルソスコピック 5m/m, 9m/m

その他ケルナー、ミッテンゼーハ

イゲン各種。

#### 屈折二枚合成アクロマチック対物レンズ(光軸修正

枠付き)有効口径(8cm以下製作中止)8cm,

9cm, 10cm, 11.5cm, 15cm, 各口径  $f=1:15 \sim 1:11$

接眼鏡: ラックピニオン二段式 40m/m 接眼鏡兼用

架台: 全周ウォーム式。

上下微動: ネジに遊びのない独自の設計。

脚: 振動のないアルミニウム鋳物製。

カタログ 30 円切手  
(誌名記入)

#### 完成反射望遠鏡各種

有限  
会社

#### 足立光学レンズ製作所

東京都武蔵野市関前5丁目1,185

国鉄中央線武蔵境駅下車バス桜橋停留

TEL 武蔵野(0422)(51)8614番

振替口座東京41970番

昭和41年9月20日

印刷発行

定価100円

編集兼発行人

印刷所

発行所

東京都三鷹市東京天文台内

東京都港区西新橋1丁目21番8号

東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野45局(0422-45)1959

広瀬秀雄

笠井出版印刷社

社団法人日本天文学会

振替口座東京13595